

令和2年4月採用 大卒程度試験 20代 男性職員

現在の仕事内容

私は、令和2年4月に甲府地方検察庁で採用され、1年目は捜査公判部門の事件管理担当に所属しており、現在は副検事の立会事務官として捜査公判に係る業務に携わっています。

立会事務官の仕事は、立会事務官の主な業務である取調べの立会から始まり、シンプルな業務もあれば、刑事訴訟法等様々な法律の知識が必要な仕事など、その仕事内容は多岐にわたります。その中でも、立会事務官は事件の受理から終結まで携わり、事件の真相の解明に立ち会うことができ、大きなやりがいを感じられる仕事でもあります。

甲府地検に入庁した感想・職場の雰囲気

甲府地方検察庁はとてもアットホームな職場です。私自身、入庁当初右も左も分からなかった時に、周りの職員の方は仕事に関わることやそれ以外のことについても丁寧に教えてくださいました。また、私は野球部に所属しており、仕事以外でもほかの職員と関われる場面があり、公私分け隔てなく関係を築くことができます。

国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

検察庁の職員として、検察業務のやりがいを感じつつ、アットホームな甲府地検で働いてみませんか？

令和2年4月採用 高卒者試験 10代 女性職員

現在の仕事内容

私は、現在、検務官室という部署で記録担当の仕事をしています。

主な仕事内容は、裁判を終えて裁判所から引継ぎを受けた確定訴訟記録や検察庁で不起訴処分となった不起訴記録を保管・保存することです。また、記録貸出の管理や判決の書かれた裁判書の謄本化などの業務も行っています。

記録は事件や判決の内容によって保管・保存する期間が異なるため、日々様々な法律や条例、規則などを確認しながら、間違えることのないよう記録に番号を付しています。

特に冊数が大量にあるものは、確認するところが多く、また、記録庫に格納するの

が体力勝負なところがありますが、一つでも何かが違うとすべてを訂正しなければならないこともあり、ひとつひとつのチェックは確実にを行うことを意識しています。

保管期間によっては、半世紀以上もの間、記録庫に存在する記録もあり、検察庁の長い歴史を知ることができます。自らがその時代の流れの一役を担うことに強く責任を感じると同時に、目に見えて達成感を得られる担当です。

一年目の昨年度は、会計課で主計係として勤務していました。主な業務として、罰金などの徴収金の収納手続き、職員や参考人への旅費の支出決定、業者などへの支払予定や支払済みの表の確認を担当していました。

検察庁ならではの仕事というのは少なかったですが、事件の捜査に係る費用も取り扱いますし、捜査や裁判が円滑に進めるようサポートをするととてもやり甲斐のある仕事でした。

採用面接などの体験談

私は高校卒業後すぐに検察庁に入庁し、検察事務官になりました。業務説明会の際には、同じく高校卒業後すぐに検察事務官となった先輩の話を直接聞くことができ、また職員の方同士の会話からあたたかく和やかな雰囲気を感じ取ることができたことで、よりこの職場で働きたいと思うようになりました。そして、採用面接では、学校生活で得てきたものや身につけてきた知識などを武器とし、そうしたものを吸収しようと努力できる姿勢を強く伝えました。また、内定をいただいた時に親同伴の庁内挨拶を行いました。どの課・部署の方も優しく対応してくださり、親子そろってここで働くなら大丈夫だと安心した記憶があります。

甲府地検に入庁した感想・職場の雰囲気

入庁した頃は、日常的に交わされる単語を聞き取ることさえできず不安でしたが、係の上司や歳の近い先輩が親切に教えてくださいます。仕事面でも、プライベートのことでも、年齢や採用年数が近い先輩が気にかけて声をかけてくださいますし、今は、ちょっとした時間には楽しく一緒に談笑するほどになりました。

国家公務員採用試験受験者へのメッセージ

その場に行ってみて初めてわかることもあると思います。少しでも興味のある方はぜひ一度、甲府地検を訪ねてみてください。